

## バイオマスボイラー・ユーザー協会 準備会へ参加のご案内

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

私ども「バイオマスボイラー・ユーザー協会 準備会」（以下、「準備会」と略す）は、「バイオマス・ニッポン」戦略によるバイオマスボイラーの普及が横ばいのまま推移し、ボイラーマーケットの拡大が停滞して業界団体の必要性が何年も前から言われていた状況乗り越えるため、ユーザーの立場を尊重しつつバイオマス熱利用マーケットの拡大を目的とする新団体づくりをめざしております。この度、準備会を設置いたしましたので、ご参加をお願いする次第です。下記をご覧の上、ご検討くださいますようお願い申し上げます。

謹白

記

### 1. 業界団体設立の趣旨

日本の最終エネルギー消費の半分は熱ですが、国のエネルギー政策は電力の安定供給に重点が置かれているのが現状です。気候変動対策として、省エネと併せて、再生可能エネルギーの熱利用、とりわけ地域に豊富な木質バイオマスのエネルギー活用・熱利用が有効であり、脱炭素効果は発電以上に熱の活用が大きなものとなります。

バイオマス熱利用については、長らく理論・技術が整理されず、現場での混乱が続き、これがバイオマス熱利用の本格的な拡大を妨げる大きな要因となってきました。ここにきて、農都会議『バイオマス熱利用の理論と実践』、JWBA『バイオマス熱利用計画実施マニュアル』などにおいて議論・技術が整理され、かつ、適切な技術に基づいて導入されたバイオマスボイラーの成功体験も出てくるようになって来ていること、2022年3月にバイオマスボイラーに対する思い切った規制緩和が実現されたこと、バイオマス熱利用に有利な補助事業が打ち出されてきていることなど、バイオマス熱利用を取り巻く条件は大きく改善されつつあります。

しかし、欧州等に比べ日本では熱利用の利点が広く認識されておらず、ボイラー等のマーケットが小さいままであるため、熱利用が拡大しないという悪循環に陥っています。このままではバイオマス資源の持つ膨大なポテンシャルを活かすことができません。機会損失は多大なものとなり、国民経済にとって大きな損失となりかねません。

それを打開するために、①バイオマス熱利用の有用性を広める、②バイオマスボイラーの普及拡大をめざす、③ユーザーサイドの意見を取り入れる等の「業界団体づくり」が急務と思われまます。電気と熱を両方作って利用するのが一番効率良いのは周知のことであり、業界団体にはいくつかの役割があります。

(1)業界団体づくりを通して、熱利用のエネルギー効率の高さ、脱炭素の優位性、燃料代の低減等、木質バイオマス熱利用の経済性、事業性について広く知らしめることでバイオマスボイラー・マーケットの拡大をめざす。(2)バイオマスボイラー導入に関わるメーカー、部品産業、代理店、コンサルの技術水準を向上させることも必要。ボイラー本体だけでなく周辺機器や運用管理の体制（ソフトウェア、人員等）、規格に合った燃料の安定供給など、トータルシステムとしての熱利用の理解を広める。(3)FIT（固定価格買取制度）によって急拡大した電気に比べ熱にはそうした優遇制度がなく、電気と熱の現状を分析し、熱利用普及の環境整備のために制度等の提案をする必要がある。(4)熱利用を導入したユーザーの目的と、導入後の運転状況が乖離している実態を調査し、ユーザー目線を意識した「熱利用システム」としての導入を推進する。

以上、準備会は、マーケットの拡大を主たる目的として、業界の健全な発展とそれによる地域活性化・脱炭素化等に貢献することをめざしたいと思います。

## 2. 業界団体（バイオマスボイラー・ユーザー協会）の目的

- (1) バイオマス熱利用の有用性を広め、ボイラー（熱電併給含む）のマーケット拡大をめざす。
- (2) 燃料（木質など）の安定供給をめざす。
- (3) ユーザーサイドの視線をもって、健全な業界の発展をめざす。

## 3. 今後の予定

- (1) 隔月で準備会を開催し、来春をめざして「一般社団法人バイオマスボイラー・ユーザー協会」設立の準備を進める。
- (2) 数か月毎にセミナーを開催し、勉強を続ける中で広く準備会への参加を呼び掛ける。  
詳しくは、次のリンクからホームページ案内をご参照ください。

<https://blog.canpan.info/bbua-junbikai/>

以上

2024年7月吉日

バイオマスボイラー・ユーザー協会 準備会  
代表幹事 辻 保彦  
東京都港区浜松町 2-5-5 13F 辻製油 東京事務所内